

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツ学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	競技者の生理的特徴と変化		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	3年生		学期及び曜時間	前期 集中	教室名	第2校舎303
担 当 教 員	松原 康秀	実務経験と その関連資格	平成元年 医師免許取得 国立病院勤務を経て平成12年 松原整形外科開院 現在に至る 【臨床歴 31年】			
《授業科目における学習内容》						
スポーツ愛好者に関わることの多い柔道整復師が知っておかなければいけない、競技者の生理的特徴と変化についてを認識し理解を深める。						
《成績評価の方法と基準》						
期末試験評価:100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
生理学改訂第4版(全国柔道整復学校協会編集)						
《授業外における学習方法》						
使用教材に指定している教科書「生理学 第4版(全国柔道整復学校協会編集)」を基に該当範囲の予習と復習を行うこと。適宜必要に応じて、図書館の書籍やJSTAGEなどで知識を深めることも必要である。						
《履修に当たっての留意点》						
カリキュラム改訂により新設された科目で、より臨床に近い内容を求められる科目となります。試験的な目的よりも自身の将来像を意識して履修してください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	成長にともなう身体の発育を理解する。	生理学第4版(全国柔道整復学校協会編集)		基礎的な細胞についての知識を確認する。
		各コマにおける授業予定	スキャモンの発達曲線			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	小児期から青年期の発育の特徴を理解する。	生理学第4版(全国柔道整復学校協会編集)		ヒトの体内組成を確認する。
		各コマにおける授業予定	運動器の発育と身長・体重の変化			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	小児期から青年期の運動における呼吸器と循環器の関連を理解する。	生理学第4版(全国柔道整復学校協会編集)		神経系と運動器の仕組みを確認する。
		各コマにおける授業予定	呼吸と心機能の発達			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	発育期の運動不足とオーバートレーニングが与える影響について理解する。	生理学第4版(全国柔道整復学校協会編集)		感覚器と皮膚の構造を理解する。
		各コマにおける授業予定	トレーニングの三大原理と運動不足・オーバートレーニング			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動の発達と習熟について理解する。	生理学第4版(全国柔道整復学校協会編集)		循環器と呼吸器の構造と働きを理解する。
		各コマにおける授業予定	運動能力の獲得と持久力の発達			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	競技者の生理学的特徴と変化を理解する①	生理学第4版(全国柔道整復学校協会編集)	消化器系の構造と働きを理解する。
		各コマにおける授業予定	トレーニングによる筋と心肺機能の変化		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	競技者の生理学的特徴と変化を理解する②	生理学第4版(全国柔道整復学校協会編集)	高齢者の特徴を理解し病態を確認する。
		各コマにおける授業予定	トレーニングによる神経機構と姿勢調節能力の変化		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	競技者の生理学的特徴と変化を理解する③	生理学第4版(全国柔道整復学校協会編集)	高齢者の運動機能についてを確認する。
		各コマにおける授業予定	緩急運動と姿勢制御		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			